

V. 北 ア の 峰 ヲ

I 餓鬼岳—唐沢岳(昭和37年12月20日—1月2日)

南・香川

我々技術研究会は37年度冬期活動の目標として北アルプス餓鬼岳—唐沢岳を選んだ。餓鬼岳は常念山脈の北端に位置し、燕岳と言うポピュラーな山がすぐ隣りにあり乍ら、訪れる人も極めて少く、俗化もされず、青のままの姿で孤独を守って来た山である。森林帯が稜線直下に迄迫り、その豊かな森林帯には北アルプスでも年々少なくなってきた猿、カモンカ等が数多く生息している。又苔類も白馬と共にその種類の豊富さを誇っている。

唐沢岳はあたかも独立峰の如き偉大な山容を誇り、急峻な沢を有し、幾多の滝を持ち、残り少い北アルプスの秘境と言っても過言ではないであろう。我々は第一回の偵察を夏期合宿終了後、7月27日～8月1日迄、L梶本以下9名で中房温泉→東沢乗越→餓鬼岳→唐沢岳のルートを取り、帰路二パーティに分れ、梶本以下2名で一の沢下降→東沢→葛、OB小野以下6名で丸山新道→葛のルートで偵察し、葛温泉で合流した。第二回目の偵察を9月1日～6日迄、L梶本以下4名で信濃松川→乳川左岸尾根→餓鬼岳→大企山→信濃常盤のルートで偵察し西戸沢→信濃常盤のルートで偵察した。

前後2回の偵察の結果、今冬の計画を信濃沓掛→営林小屋→乳川左岸尾根→餓鬼岳→唐沢岳と餓鬼岳小屋→中沢岳に決定し10月28日～11月4日迄L梶本、福本、OB小野以下7名でベナント工作と荷上げを行い、12月20日～1月5日迄の冬期活動を待つばかりとなった。

12月20日、OB、現役諸氏の見送りを受け21時35分急行「千曲」で大阪を出発。

12月21日 快晴 6時沓掛着。夜明と共に我々が目指す餓鬼岳がバラ色に輝やいて美しい。朝食を採って出発する。今日は営林署小屋迄だ。ゆっくりしたペースで歩く。それでも久しぶりの重荷のためかやけに肩が痛い。一時間程で森林帯に入る。所々に雪が残ってるだけだ。どうも今年は雪が少いようだ。営林署小屋に着いて荷の整理も一段落した頃、大町へ用事に行って居られた小野、梶本、堀氏らが来られた。全員揃って夕食のカレーをばくついた。

沓掛8.00→伐採小屋10.30→営林署小屋11.30

12月22日 晴時々小雪 出発が少し遅れた。乳川右岸の細い山道に行く。40分程歩いた所で左岸に渡る。すぐ尾根に取付くが、取付点は凍っていてツルツルすべり登りにくい。尾根に出るとワカンが不要な程雪が少く快調にとばす。10月の荷上げで付けた赤布が所々木に下っていて我々にルートを教えてくれる。1600m附近で昼食、あまり寒さを感じない。午後になって皆疲れが出てきたようで朝方の快調さとはうって違ってペースが遅くなる。常盤と松川の分岐より2ピッチ位下の所で設営する。相当こたえた。この尾根は幾度登ってもシンドイ。餓鬼岳はすぐ近くに見える。

営林署小屋7:10→1600m11:00→テント場(2000m)15:00

12月23日 晴 常盤と松川の分岐を過ぎる頃から雪量は急に増してきた。先頭の3名は空身でラッセルし、後をボッカ隊が続き高度をかせぐ。高く上るにつれて益々雪は深くなる。昨日は4～5時間で行けると思えたが、少々簡単に考えすぎていたようだ。餓鬼小屋迄20分の立札迄来てヤレヤレと思った。夏道のトラバースルートをとらず尾根筋を忠実に登る。胸までのラッセルに苦しめられ、目と鼻の先の稜線になかなか出られない。最後の急斜面をよじ登ると遂に稜線に出た。すごい風だ。風で雪が吹き飛ばされ稜線には雪は付かず岩がでてゐる。雪稜を辿って10～15分で餓鬼岳のピークに着いた。全身の力が抜けて行くようだ。小屋迄急ぐ。寒さが身にしみる。

小屋の入口は雪で埋っていた。最後の力をふりしぼり入口を掘り出す。小屋の中にテントを張って落ちつく頃はもうまっ暗だった。

テント場 8:10→2260m 10:30→20分の立札 15:00→

餓鬼小屋 17:00

12月24日 雪風強し 5:20 起床、外は風雪とガスで全然視界がきかない。停滞。皆んなもう一度寝10頃起きて11月にボッカした荷を整理する。夜、満天に星が輝き体がゾクゾクする程冷え込んで来た。明日はきっと良い天気だろう。

12月25日 快晴 素晴らしい天気だ！東の空が赤く美しい。春のような暖かさ気分は最高だ。2名のキーパーを残し唐沢岳に向う。西餓鬼の所でラッセルに苦しんだ以外、予想より雪も少く快調。森林帯もあまり雪は深くない。心配していた唐沢岳への最後の斜面も雪がほとんどなくブッシュをつかんで強引に登る。頂上で昼食の時テルモスが二つとも割れていてがっかりする。

しかし、それも周囲の素晴らしい景色で苦にならない。立山連峰から穂高、鹿島槍等北アルプスがパノラマのように眼前に白いヴェールにつつまれて展開している。全く形容の出来ない程の美しさだ。下りは急斜面をアブザイレンで下る。天候は全く落ちついていて。春のような天気で体が汗ばむ位だった。

餓鬼小屋 7:10→西餓鬼岳 8:10→唐沢岳 11:10→西餓鬼岳 14:20
餓鬼小屋 15:40 キーパー・小野・香川

12月26日 快晴、風強し 小野・梶本・香川 3名 剣ズリアタック、3名を見送り餓鬼岳の頂上でスケッチなどして周囲の山々の景色を心ゆく迄楽しむ。剣ズリのあたりに時々下からガスが吹き上げている。アタック3名の苦勞が目につく。3:30頃稜線に3名の姿が現れる。うまくいった様だ。4:00頃3

名無事帰着。強風に悩まされたとの事、御苦労さん。

小屋7:10→剣ズリ13:10→小屋16:00

12月27日 快晴 今日も又快晴、この合宿はほんとうに天候に恵まれていた。いよいよ今日撒収。小屋の後かたづけをして8:00 餓鬼岳のピークへ向う。偵察以来この頂を幾度ふんだ事だろう。餓鬼岳は今のままでいつまでもこの静けさを守ってほしいものだ。登路を下る。少し積雪が増しているような気がする。しかし登りとちがって下りは早い。ラッセルに苦しんだ斜面をシリセードでとばす。途中Fがスリップ5m程転落、一瞬ヒヤッとした。けがはなく一安心。最後迄心を引きしめてもらいたい。営林署小屋に着いた時は4:30なのにあたりはもう暗い。

餓鬼小屋8:00→2000m 10:50→営林署小屋16:30

12月28日 信濃沓掛迄のんびり歩く。皆で八方尾根ヘスキーに行き1月3日大阪に帰った。この合宿は天候にも恵まれ全てが計画通りうまくいった反面冬山の厳しさが少かったように思う。特に新人たちが冬山がこんな簡単なものだと言う観念がこれからの山行に残す事がないように注意したい。とにかく計画は完全に終了した。最後に餓鬼岳小屋を提供して下さった丸山さんに心から感謝します。

餓鬼・唐沢岳概念図

